

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年8月1日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子第2幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

「笑顔がいっぱいの杉の子第2幼稚園」

①心身ともに調和のとれた発育・発達と健全な人間性の基盤を築くこと

②精神的にも肉体的にも、つよく・かしこく・たくましく・感性豊かな思いやりのある子の育成

<杉の子第2幼稚園の教育>

「杉の子第2幼稚園の教育とは、しっかりした理念をもって、子どもを伸ばすことである」～しかも、笑顔つきで～

2. 本年度重点目標・計画

<本年度の重点>

・教職員の資質・指導力の向上⇒個々の力と組織力（チーム園の結集）

・人間的な魅力（あたたかさ、ポジティブシンキング）

・表現力、特に聞く力の育成

・個から集団へ（個を大切にしながら、集団としての力を育む）

・保育から教育へ（幼稚園らしさの追求）

・保育部・幼稚園部・預かりの連携

・危機管理（安全対策）、感染症対策

・人材の確保・育成

↓ そのために

○目標と指導と評価の一体化を図る

○つけたい力、目標等を明確にし、子どものやる気、主体性を生かす展開、活動を行う

○一生懸命にやるすばらしさを体感させる

○子どもの話（声）に耳を傾ける

○年長児のモデル化、異学年の交流を図る

○行事や体験活動、あそびを通して生きる力を育む⇒合言葉は「キラリン あそぶぞ エイエイオー！」

○いろんなことをやりたいと思えるように、夢中になれるように⇒夢中になったら見守る、任す⇒合言葉は「やりたい！夢中！」

○幼稚園はあそぶ所をコンセプトとして、火曜日を「あそびの日」として、朝来た者から外あそびをする

○あいさつ、「ありがとう」「ごめんね」が気持ちよく言える子どもを育成する

○情報の発信を行う

○子どもの笑顔があふれる環境づくりを行う

○詩の朗読⇒楽しく表現

○継承と発展⇒「このような子どもに育てたいから、このような取組をしていこう！」の視点で⇒子どもを中心とした保育・教育を実践する

※人には優しく、自分に厳しく、保育・教育のプロとして愛をもって、子どもを伸ばしましょう！

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	評価	取組み状況
1 教育課程を見直し改善を図る	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「キラリン あそぶぞ エイエオー」の合言葉のもと、「あそび」というものを意識できるようになってきた。やらなければならないではなく、「やりたい! 夢中!」になる環境づくりや手立てを打ててきたと感じる。 ・合言葉をもとに、同じ方向を向いてみんなが子どものために保育・教育をしている。子どもの主体性を大切に合言葉と捉え、自然と子どもたちがやりたい、夢中になれる環境を考えることができる1年となった。毎年の合言葉を先生たちなりに捉え、保育・教育を展開する姿が当たり前となっている。 ・合言葉も子どもたちのなかに定着して、ふだんのあそびや行事などもたくさん笑顔が見られたり、思いきりからだを動かしてあそぶことができていると思う。日々の活動のなかで、子どもたちが夢中になってあそびこみ、あそび・生活から行事へとつなぐことができた。 ・できるだけ、自由あそびや子どもたち同士が自由に考え関わることができるような時間を確保している。子どもたちの「やりたい」という気持ちを大切にすることによって、子どもたちは活動やあそびのなかでのびのびと過ごすことができている。
2 職員の資質向上(研修・情報共有等)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・四国大会に向けて職員全員で課題に取り組み、質の高い話し合いができた。園内研修を通して、互いに知ったり、認め合ったりと大きな学びとなり、自分の保育・教育を振り返ることができた。行事等で各クラス担任がねらいや身につけたい力を保護者にも知らせ、それに向けての手立てや援助を行い、子どもたちが、「楽しい! うれしい!」気持ちになれるように工夫されていた。 ・子どもたちと積極的に関わり、愛着形成のもとに保育部と幼稚園部の連携が取れていた。保護者の気持ちや思いを意識しながら、保護者との信頼関係を築いている。 ・研修等に積極的に参加することによって、保育者の気づきや意識の高まりが見られ、環境構成に変化が見られたり、集団保育から一人ひとりを尊重する関わりが当たり前であるという雰囲気になっている。職員の意識も変化したように思う。 ・あいさつも含めて、教職員の笑顔があふれていたように思う。職員同士のコミュニケーションが取れていたため、子どもたちも日々の活動が楽しそうだった。
3 特別支援教育のための園内支援体制を整備する(家庭との協力・連携も含む)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特性や個性を特別なものとするのではなく、その子自身をそのまま受け入れて保育・教育ができていた。教職員と保護者との関係性もよく、いっしょに子どもの成長を見守っていく姿勢があった。 ・子どもの特性を理解し、丁寧に関わることができていた。保護者とのコミュニケーションも取りながら、安心して園に通うことができていた。 ・家庭との面談も、その都度行うことができ、連携も図れた。話し合ったことを資料としてまとめ、園全体で共通理解したり、小学校や教育研究所の先生方とも密に連絡や話し合うことができた。園全体で成長を見守り、保護者支援もすることができていたと感じる。 ・子どもの特性理解については担任任せせず、皆で考えたり寄り添っていく姿勢が見られる。事業所や市との連携は昨年度より深まってきている。専門性をもつ先生からのアドバイスを受けることで、手だての善し悪しも分かり、自信をもつこともできた。関係機関の方も園に来て様子を見てくれたり、三者面談に入ってくれたりして、支援方法を共有している。
4 安全管理体制の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス内の整理整頓を行い、安全に過ごせるようにしている。アレルギーのトラブルがあれば、日々のルーティンを確認し、誤食が起きないように改善、実行した。 ・アレルギー対応については、座席の配慮、配膳の順番、二重チェックの徹底で、安心して提供できた。 ・園内の危険な箇所を見つけたら、クッションや配置を変えるなど、安全に過ごせるように気を付けている。 ・園庭遊具や園内の遊具の使い方を保育者同士で理解して、安全面に気を付けることができていた。 ・みんなで日々の掃除や点検を意識して行い、子どもたちの今の姿や課題点から安全面の配慮や指導、職員間の連携も図っていった。 ・子どもの活動を制限するのではなく、行動を理解しながら見守られていたと思う。保護者への連絡や説明も細かくできていた。

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取組まれているが、成果が十分でない D: 取組みが不十分である)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人ひとりの子どもを大切に質の高い教育・保育を実践することができた。また、更なる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取組まれているが、成果が十分でない D: 取組みが不十分である)

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
1 教育内容	発達段階に応じた計画を立て、楽しい空間とするために子どもの姿をよく見て、ねらいを立てる必要がある。行事等への取組を早めに共通認識し、子どもたちの「やりたい! 夢中!」を引き出していききたい。火曜日を「あそびの日」と固定したことによって、見通しをもった活動を始めるようになったが、あそびのとらえ方の違いもあり、火曜日の朝から園庭に全クラスがそろわない日もあった。行事にとらわれず、「あそぼう」という意識はあるのだが、活動の計画がうまくいかないときがあった。子どもたちがのびのびとあそびを展開するための「あそびの日」には保育者の意識改革が必要である。できない理由ではなく、できるためにどうしたらいいかを考えていききたい。
	「あそびの日」をきっかけにしながら、子どもの興味・関心、やりたい! 夢中! をもっと引き出していききたい。研修や公開保育を通して、全員が自分の意見を言うように、いろんな視点から子どもたちを見れるように、学びを深めていききたい。教材研究も大切だが、ものを大切に使うことや、使ったら片づけるなど、子どもたちに伝えるべきことの見本に保育者がなれるようにしていききたい。また、子どもたちが自らそういったことをやろうとするような指導を考えていききたい。あいさつや笑顔といった対応については、いつでも誰でもできていくわけではない。自分も幼稚園の顔であること、あいさつや笑顔が子どもや保護者にどのような影響を与えるか考えて実践していききたい。そして、客観的に保育者として自分を見ることができているか、先生としてのプロ意識はどうなのか、自分なりに見つめ直していききたい。笑顔忘れずに大きな、元気な声でハキハキと話し、もっと保護者との信頼関係を深く築き、安心してもらえるようにしていききたい。
	担任、副担任が連携を図りながら、個別の計画を使って援助を細やかにやっていく必要がある。気になる子、支援が必要な子に対して、寄り添うことでどんな援助が必要なのか考えていききたい。関係機関、専門機関等と連携をとり、幼稚園がより安心する場にしていききたい。特別支援対応は、子どもの姿はもちろんのこと、保護者の思いも大切にしていきたい。そんな思いも全教職員で共有して声かけ等も考えていききたい。そのための研修や話し合いでスキルアップしていききたい。少人数な園ならではの全体保育ができていたので、さらに園全体で共有していききたい。
	園が安心・安全で、子どもたちの気持ちが安定して過ごせるように、さまざまなことに注意喚起していききたい。給食での誤食がないように、今までと同様にチェックを怠らないようにしていききたい。園内の整理整頓や安全点検を行い、地震等の災害時の動線もしっかり確保しておきたい。危機管理の在り方について、アップデートしていけるようにしていききたい。危険なことが起きた時だけでなく、起きそうになった時等次に生かしているように保育士間のコミュニケーションを大切にしていきたい。常に危機管理の視点を持ち、園全体で意識していけるようにしていききたい。

6. 学校関係者の評価

<令和6年度後援会会長>

子どもたちのためにしっかりと目標を立て、実現するための具体策をもって取り組んでいることを、保護者として日々感じる事が出来た。「キラリン あそぼぞ エイエオー！」の合言葉があることにより、園の一体感を子どもたちも感じる事が出来、その一体感のなかで年長組がリーダーとなり、異学年交流が積極的に行われ、集団としての力を育むことが出来ていたと感じる。また、苦手なことを諦めずに取り組むことで得られる達成感を味わえるよう、先生方が意識的に取り組んでくれたので、子どもたちは諦めなかった自分に対する達成感や喜び、なかまを励ます力を養うことが出来たように思う。これからも、子どもたちが真ん中のキラリンスマイルで成長出来るよう、取り組んでいただけることを願っている。

<評議員/株式会社adear相談役>

先
日園を伺う機会があり、改めて感じたのはあいさつの気持ちよさで、職員の皆さんをはじめ、子どもたちみんながとても気持ちの良いあいさつで迎えてくれた。過去に数十名の社員を採用したが、その時に感じたのは、人はその人の生きてきた家庭や受けた教育の環境があいさつに集約されているということである。残念ながら、自然なあいさつがしっかりできない社員は、大人になってからの指導や注意ではなかなか変わることが難しい。あいさつを通して、最も大切な幼児期にしっかりと教育されていると感じ、改めて思ったことである。

<鴨田小学校校長>

・公開保育に参加して感じたことは、一つの学級に複数の教職員で指導に当たり、「子どもにどういう気づきをさせたいか」、「10の姿に近づけるためのねらいや目標はどういったものか」といったことが共有できていたことである。合わせて、「どうやったらそうなるのか」等、効果的な言葉かけが行われていたことである。そして、これまでの活動を生かして次の活動につなげたり、「教える」のではなく、五感を使った遊びを通して伸び伸びと自己表現できるような環境づくりを行っていた。子ども達への直接指導としては、褒める、認めるといった肯定的、且つ、あたたかな関わりで子どもを伸ばす指導が随所にあった。また、一人一人のしたいことを表現させた後、それらを認めながら集団として活動する場合の折り返しのつけ方を学ぶことができる場の設定も見られた。

・支援が必要な子どもたちについては、保護者とも面談を行い、それらを共有しておくことを大切にいただいている。これらの取組のおかげで、入学前には貴園と本校で個別の移行支援計画を用いた引継ぎ会等を行い、幼稚園と小学校で切れ目のない支援を行うことができています。今後も、在園中から専門機関や事業所等との他機関と連携した指導・支援を継続していただきたい。

・0歳児から5歳児まで、系統性を意識した愛着の形成を行っていることが伝わってくる。職員の資質向上のための研修や情報共有により、子どもを見守り、育てる職員集団となっていると思う。